

# アンケート結果に見る育児世代の現状と課題

東京大学 江尻晶

内容

- 情報源
- キーワード
- 在職場時間、自宅仕事時間

本資料は、発表資料の抜粋です。

# 情報源

男女共同参画学協会連絡会

<http://www.djrenrakukai.org/index.html>

第三回大規模アンケート解析結果

<http://www.djrenrakukai.org/enquete.html#enq2012>

一>施策(出産・育児からの復帰支援事業RPD、女子中高生の理系進路選択支援事業、女性研究者活動支援事業、科研費における出産・育児に配慮した措置等)、

既存の制度、機関ごとの制度  
育児休業、同居支援

# 男女共同参画等を理解するためのキーワード

男女共同参画→ダイバーシティ(多様性):女性だけでなく、外国籍、障害者等マイノリティーの権利への配慮

ガラスの天井(glass ceiling): 昇進に見えない障壁がある。

Leaky pipe(漏れやすいパイプ): 年齢(昇進)とともに女性比率が減少するさま

2030:2020年に指導的地位に占める女性の割合を30%にするという政府の目標

アファーマティブアクション:人事(採用)に等において女性採用を優遇する措置

ワークライフバランス:仕事偏重家庭軽視→仕事と家庭等の適度なバランスが重要(働きすぎはだめ)

Dual Career問題と同居支援:女性研究者の配偶者のほとんどは(男性)研究者、別居、単身赴任問題

ポストドクター問題:任期付きポストの急増、任期無しポストの減少→職の安定性

育児・介護:担い手はほぼ女性

日本の女性研究者の割合は13.6%と世界的に見てかなり低い水準。プラ核学会の女性会員比率は3.0%であり、物理系での低さを反映していると考えられる。

### 内閣府男女共同参画局 男女共同参画白書 平成23年版

ガラスの天井&漏れやすいパイプとは年齢や役職とともに女性比率の減少する様を表す。

「第3回 科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」男女共同参画学協会連絡会(2013)pp.14

女性研究者の夫は研究者である比率が高い(学会によっては75%)。一方、男性研究者の妻は専業主婦の比率が高い。

「第3回 科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」男女共同参画学協会連絡会(2013)pp.36

在職場時間は、男女、雇用形態等の影響を受け、自宅仕事時間は、子の有無にも依存する。在職場時間と自宅仕事時間の和を一定にする傾向があるが、女性の方が在職場時間は少ない。ただし、家事・育児時間を加えると、男女とも和は一定となる。このことは、女性が家事育児に時間を費やし、その分仕事時間が減ることを意味する。

また、年齢とともに、自宅仕事時間が増え、在職場時間が減る傾向がある。分野別では生物系>化学系>物理系>電気情報系の順に在職場時間が減っていく。所属機関別では国立私立大学で在職場時間が長い。

「第2回 科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」の物理学会、生物物理学会、動物学会のデータの再解析(日本物理学会春季大会、関西学院大学 2012.3.24-27  
26pCF-3 江尻晶他より抜粋)